第2回三木市小中一貫教育推進協議会 次第

日時 令和4年7月26日（火）
午後7時から
場所 三木市役所5階大会議室

1 開会

2 振り返り（資料1）

3 議事

（1）子ども像について
・未来の世界（資料2）
・今の子ども（学校）の様子

（2）三木市の方向性について
・児童生徒数、子ども人口予測（資料3、4）
・これまでの協議内容（資料5）

（3）施設一体型小中一貫校について（資料1、東条学園パンフレット）

4 まとめ

5 閉会

小中一貫教育推進協議会リポート

ふれあい

No.1 （R4.6）

小中一貫教育推進協議会
三木市教育委員会

６月１日（水）午後７時から、第１回小中一貫教育推進協議会を開催し、学識経験者、地域、保護者、学校の代表で構成する１２人の委員で三木市の小中一貫教育について話し合う協議会をスタートしました。委員長には、神戸大学大学院山下教授、副委員長に兵庫教育大学大学院安藤准教授を選出しました。第１回協議会の様子をお知らせします。

１「小中一貫教育」の理解を深めるため、ABCの３つに分けて教育委員会から説明しました

A　「小中一貫教育とは」

・「６－３制」は戦後約７５年間、日本社会に定着している。
・１５年ほど前から「いわゆる中１ギャップ」が顕著になる。
・小６と中１のつながりに着目し、小中連携に取り組んできた。
・いじめ・不登校等「子どもの課題」は、小学校卒業では終わらない。
・小中一貫教育には、未来につながる力を育む大きな可能性がある。

キーワード「小中一貫教育とは、義務教育９年間の学びをつなぐ教育」
（９年間で支え、導く仕組み）

B　「三木市の小中一貫教育」

・子どもたちの９年間の「姿」「学び」「心」をつなぐ。
・中学校区で「めざす１５歳の姿」を作成する。
・切れ目のない９年間を見通したカリキュラムを作成する。
・心理的な課題に対応するため、小・中学校教員の見守り体制を強化する
・導入によって、「教師が変わる」→「授業が変わる」→「子どもが変わる」
・５か年計画で実践的な取組に着手し、全市的に推進する。
・「三木市ならでは」の小中一貫教育を進める。

キーワード「めざす15歳の姿の共有による「離れていても小中一貫教育」を推進」

C　「施設一体型の学校施設」

・同じ敷地内に小学校と中学校が建ち、学校生活を共に過ごす。
・日常的に小・中学校の子どもがふれあう「時間」と「場所」がある。
・上級生がリーダーシップを発揮し、下級生はあこがれを抱く。
・１つの職員室で小・中学校の教員の交流が深まる。

キーワード「小中一貫教育を最も効果的に行える環境（学校）」

２ 意見交換の様子を紹介します（ワークシートに記入があった内容を含む）

《学校・教育内容関係》

（ 疑問点 ？ については、２回目以降の協議会でお答えします ）

・小規模小学校から大規模中学校への進学時、中１ギャップが強烈。対策について？
・三木市ならではの取組が大切で教育課題の明確化が必要。意義や目的の明確化につながる。
・中１ギャップとともに、幼児教育と小１とのつながりを大切にしてほしい。
・先生が一方的に進める授業ではなく子の意見交換の場が増え、意欲向上につながってほしい。
・小中では学校の文化が違うが、良いところは残す。小学校はより子どもの「自立」を目指す。
・地域の教育力の活用をどのように推進していくか？

《教員関係》

・小中一貫教育実施時、教員免許についてはどのようになるのか？
・教員の資質向上に向けた具体的な研修プログラムの実施について望む。
・教員の意識改革が最も大切。交流、研修等具体的取組や実践を積み上げたい。
・小中の子ども同士が環境に慣れるのは早いが、教員間はどうなのか？
・教員の協働体制構築に時間がかかるという課題がある。良い学校経営事例の紹介がほしい。
・異学年授業、カリキュラム作成等を小中で企画調整できれば、職員の交流が深まったと言える。
・校長は一人だけなのか？
・生徒数に対する教員数の比率は増加するのか？

《小中一貫教育（9年間つながる学び）の制度》

・「児童生徒の安心」が小中一貫教育のキーワードの１つだと思う。
・小1と中3では、身体・精神面が大きく異なるが、一貫教育（同じ場所）で可能か？
・小学校6年間と中学校3年間が別で考えられていたことに驚いている。
・中学入学が良い意味で「新しい出会い等」リセットとなる生徒がいる。一体型の学校では？
・小中連携より有効な方法として小中一貫教育をアピールするには更に事例やエビデンスがいる。
・このような説明の機会をより多く設定し、教員・保護者・地域の「不安」を夢や希望に変えたい。
・9年間という長い間、いじめのヒエラルキーが変わらないことが不安である。
・6－3と年数を区切った意図は何だったのか？ 制服や部活動は？
・図書室、ランチルーム、プール等、地域の方も使えたらよい。学校教育と社会教育の融合が必要。

《教育の特徴や施設一体型の学校への共感意見》

・日常の教員、子どもの交流を考えると、施設一体型のメリットが大きいことは明らか。
・将来的に目指すことは素晴らしい。移行までの子どもたちへの取組（教育）も大切である。
・9年間の学習計画でつまずきやすい課題を共通理解し、個に応じた指導ができるのは良い。
・ここ数年で一体型にはならないと思うが、中学生がリーダーシップをとり成長するのは良い。
・いじめ、不登校がある中、9年間で支え導く仕組みは理想の教育だと思う。
・映像で施設が見えると夢や希望につながる気持ちになった。

インフォメーション

・第2回協議会は、7月26日に開催予定です。予定している意見交換のテーマは、
「子どもにつけたい力」
「施設一体型小中一貫校」等を予定。
・第3回協議会は、8月後半に加東市にある東条学園の視察を計画しています。

お問い合わせ
三木市教育委員会学校再編室
電話 0794-89-2400
・ホームページもご覧ください。
ホームページURL
https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/61/4046.html
又は、「三木市 学校再編」で検索

資料2

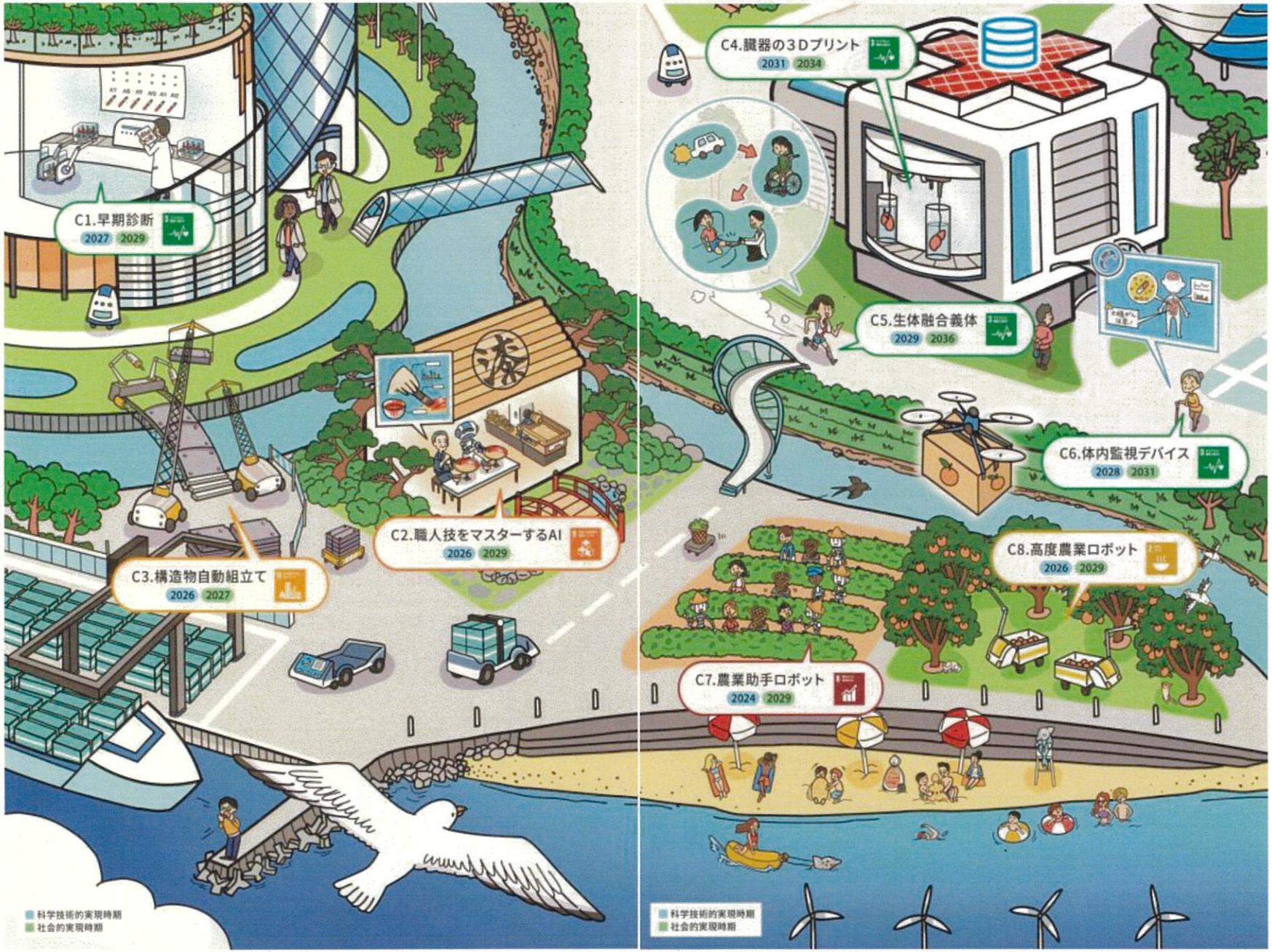
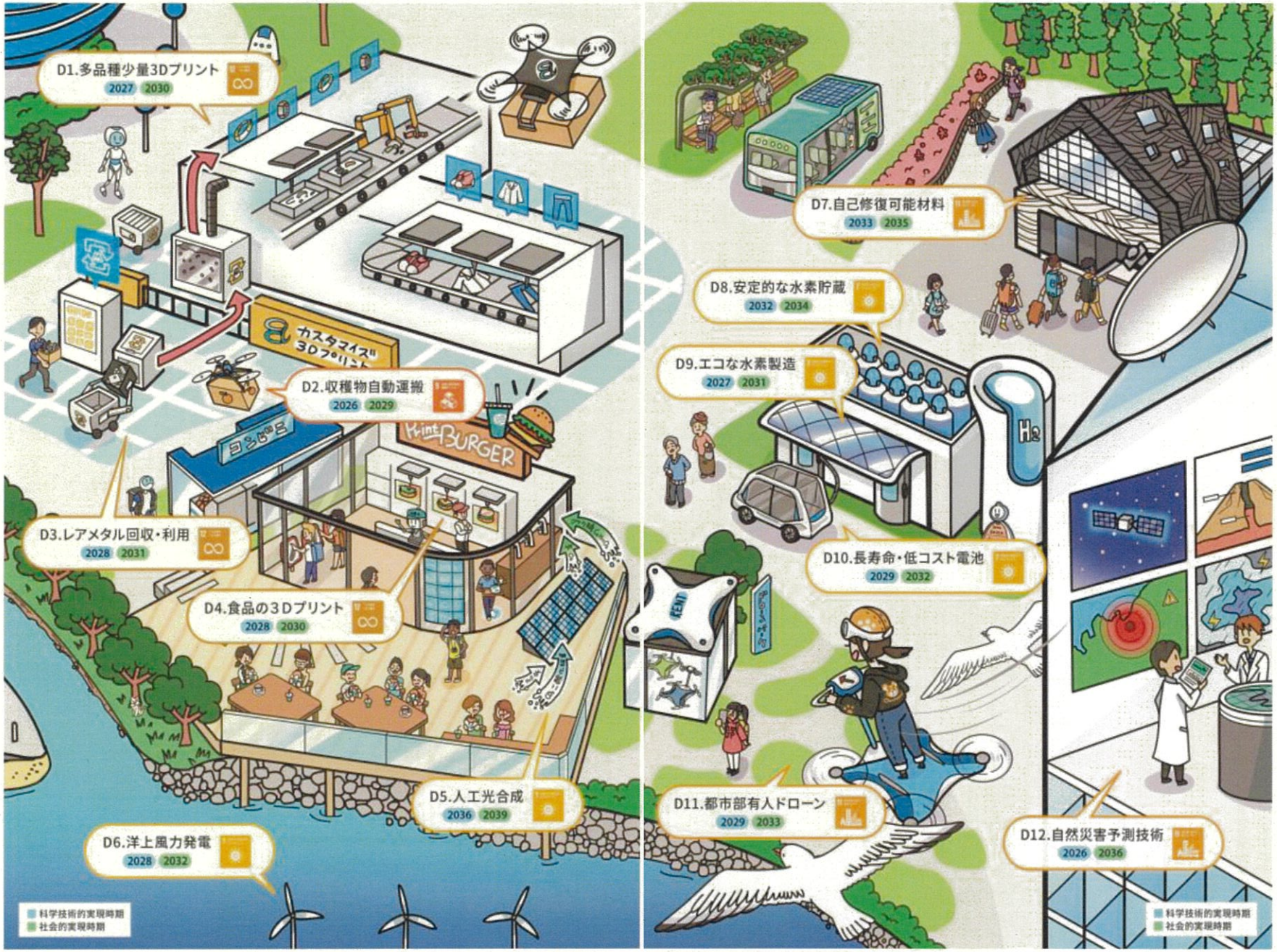
2040年の社会イメージ　科学技術白書(R2)

文部科学省　科学技術・学術政策研究所
三木市教育委員会編

A 人間らしさを再考し、多様性を認め共生する社会

B リアルとバーチャルの調和が進んだ柔軟な社会

C 人間機能の維持回復とデジタルアシスタントの融合による「個性」が拡張した社会



D カスタマイズと全体最適化が共有し、自分らしく生き続けられる社会